

Ⅳ 各部・各学年・各教科の目標

1 各部の努力目標

〈 教務部 〉

(1) 基本方針

各部・各学年並びに各教科と密接な連携をとり、学校全教育活動を円滑に推進しながら生徒一人ひとりに光を当てた教育活動が実践できる学校づくりに努める。

(2) 努力目標

- ① 行事の精選
- ② 授業時数の確保
- ③ 教育課程の整備
- ④ 諸表簿の整理保管の徹底
- ⑤ 校内研修の充実
- ⑥ 内規の整備及び内規の周知徹底
- ⑦ 進路相談支援システムの運用管理
- ⑧ P T A活動の活性化
- ⑨ 広報活動の充実

〈 生徒指導部 〉

(1) 基本方針

教育目標・努力目標・校訓・生徒指導の基本姿勢に則り、すべての教師があらゆる教育活動において師弟同行・率先垂範を心がける。(毅然としたねばり強い指導が生徒の社会的自立を育む。)

(2) 努力目標

- ① 自発的・積極的・生き生きとした学習態度の確立。じりつできる生徒の育成。
- ② 規律ある学校生活の確立(態度教育の徹底)。
- ③ ホームルーム活動・生徒会活動・部活動の活性化。
- ④ 保護者・地域社会との連携を密にする。

〈 図書視聴覚部 〉

(1) 基本方針

- ① 本校の教育活動に必要な資料や情報を収集し活用の円滑化を図る。
- ② 生徒の健全な教養の育成を図る。

(2) 努力目標

- ① 本校の教育活動に必要な図書資料や情報の収集及び提供
- ② 学校図書館の整備充実及び視聴覚施設・設備機器の効率的な利用促進
- ③ 生徒の健全な教養及び知的探究心を求める態度の育成

〈 進路指導部 〉

1. 基本方針

生徒一人一人の全人的な発達を促し、自己理解に基づいた進路指導を行う。

2. 努力目標

(1) 進路意識の涵養と進路の早期決定を促す。

- ① 進路希望調査・学習実態調査を実施する。
- ② 学級担任との連携を密にして、LHRを通じて進路指導を行う。
- ③ 活動履歴の記録を通して自己管理能力を啓発する。
- ④ 探究活動の充実を図る。
- ⑤ 授業を大切にし、自宅での予習・復習の定着をはかる。
- ⑥ 特進クラスの活性化を図る。

(2) 積極的進路選択を促す。

- ① 進路講演会、進路説明会を実施する。
- ② 県内外の大学等に関する情報の収集と提供に努め、受験意識を高める。
- ③ 大学入学共通テストの受験を奨励し、各種大学への受験機会が広がるように指導する。
- ④ 小論文等の指導の充実を図る。

(3) 各種講座を充実し、学力の向上をはかる。

- ① 早朝講座(1, 2年生全員を対象とする)を企画し実施する。
- ② 課外講座(全学年を対象とし、希望制とする)を企画し実施する。

(4) 諸テストを実施し、その有効な活用をはかる。

① 全員必修の試験（小論文模試は総学で実施）

| 1年生 | 2年生 | 3年生 |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 4月 第1回校内実力テスト (スタディサポート) | 4月 第1回校内実力テスト (スタディサポート) | 4月 第1回校内実力テスト (スタディサポート) |
| 9月 第2回校内実力テスト (スタディサポート) | 9月 第2回校内実力テスト (スタディサポート) | 5月 小論文模試(総探で実施) |

② 特進クラス必修模試（下記の模試は特進クラス以外の生徒も希望者は受験できる。）

| 1年生 | 2年生 | 3年生 |
|-------------|-----------------------------|--|
| 6月 総合学力テスト | 6月 総合学力テスト | 6月 ベネッセ共通テスト模試 |
| 11月 総合学力テスト | 11月 総合学力テスト | 7月 第2回全統共通テスト模試 |
| 1月 総合学力テスト | 1月 総合学力記述模試 2月 共通テスト対策模試 | 9月 ベネッセ共通テスト模試 |
| | | 10月 第2回ベネッセ駿台記述模試 第3回全統共通テスト模試 ベネッセ共通テスト模試 |
| | | 11月 全統プレ共通テスト模試 |

③ その他の希望制模試：上記①②以外にも、河合全統模試、公務員模試等を希望する生徒に実施

〈 環境保健カウンセリング部〉

(1) 基本方針

- ①施設・設備の整備や校内美化に努め、学校生活の環境を整える。
- ②防災・安全対策に関し、生徒の安全確保及び学校の安全管理に万全を期す。
- ③保健管理と保健教育の活動を適切に行うことによって、生徒の健康を保持増進し、心身ともに健康な人間育成を図る。
- ④教育相談活動の充実によって、集団と個々の双方により生徒の発達を支援する。

(2) 努力目標

I. 環境整備について

- ①施設・設備の拡充・整備を促進する。
- ②校内緑化に努め、緑豊かな学校環境を目指す。
- ③美化意識を高め、清掃の習慣を定着させる。
- ④生徒美化委員の育成強化、定期的な美化点検の実施運営に努める。

II. 保健について

- ①心身の健康管理と生活の管理を行い、校内緊急体制の整備にあたる等保健管理に努める。
- ②個別の保健指導や健康相談、保健便りの発行を通して保健教育の充実を図る。
- ③学校保健・体力向上推進委員会の充実を図る。

III. 教育相談について

- ①学校の教育活動全体を通じて、個々の生徒の特性等の的確な把握に努め、その伸長を図る。
- ②生徒・職員・家庭との連携を図り、教育相談室やスクールカウンセラーの活用と充実に努める。

〈 事務部 〉

1. 基本方針

- (1) 予算の経済性・効率性等に基づき、適正な執行及び授業料等の期限内納入に努める。
- (2) 教育環境の整備・充実に努める。
- (3) 事務の合理化・簡素化・迅速化に努める。

2. 努力目標

(1) 予算の節減等について

- ① 職員・生徒と協力し、電気料等の予算節減を推進します。
- ② 職員と協力し、適正な予算執行及び備品管理に努める。

- (2) 授業料・学校取扱金について
- ① 学級担任・学年主任等と連携をとり、授業料等の期限内納入に取り組む。
 - ② 長期滞納者は、管理者（教頭）・学級担任等と連携し指導します。
 - ③ 保護者に対しあらゆる機会に授業料等の納入に対する理解と啓発を図る。
- (3) 施設・設備の整備・充実及び環境保健部等と協力し、安全点検（危険箇所・修繕箇所の把握）に努める。

2 各学年の努力目標

〈 1 学年 〉

(1) 指導目標

- ① 基本的な生活習慣の確立と自己教育力（じりつの精神）を育てる。
- ② 将来の目標を具体的に考えさせる。

(2) 努力目標

- ① 基本的な生活習慣の確立

| | | |
|------------|-------------------|-----------|
| ア. 挨拶の励行 | イ. 遅刻・無届け欠席・欠課の指導 | |
| ウ. 清掃の徹底 | エ. 服装・容儀の指導 | |
| オ. 下校指導の徹底 | カ. 携帯電話利用のマナー指導 | キ. 持ち物の管理 |
- ② 学習意欲の高揚

| | |
|--------------------|----------------------|
| ア. 学習する雰囲気作り | イ. 家庭学習の習慣化を図る |
| ウ. 課外講座や模擬試験への呼び掛け | エ. 進路の早期決定への取り組みを図る。 |
- ③ ホームルーム活動の活性化

〈 2 学年 〉

(1) 学年目標

「じりつ」の精神に則って、文武両道を実践する規律ある学年づくり

(2) 努力目標

- ① 基本的な生活習慣の確立

| | | |
|-------------------|--------------|------------|
| ア. 考えて行動する習慣の実践指導 | イ. 挨拶の励行 | |
| ウ. 遅刻・無届け欠席・欠課の指導 | エ. 清掃指導 | |
| オ. 服装・容儀の指導 | カ. 家庭との連携、協力 | キ. 健康管理の指導 |
- ② 学習意欲の高揚

| |
|---------------------------------------|
| ア. 総合的な探究の時間等を通じた進路決定に向けた取り組みの強化 |
| イ. 授業へ集中するための学習環境・雰囲気づくり |
| ウ. 家庭学習の習慣化 |
| エ. 課外講座受講や模擬試験等の受験の奨励 |
| オ. スタディサポート及び定期考査等のデータを活用した生徒の学習意欲の向上 |
- ③ ホームルーム活動の活性化

| |
|---------------------------------------|
| ア. 自主的、創造的なホームルーム活動の推進 |
| イ. 他者の人格を尊重し、いじめを「しない・許さない」環境と雰囲気づくり。 |
| ウ. 社会的弱者をいたわる心を育てる教育活動の推進 |

〈 3 学年 〉

(1) 学年目標

「じりつ」を伸長させ、那覇西高校生らしく「挑戦」する進路決定ができる学年づくり

(2) 具体的な努力事項

- ① 基本的な生活習慣の確立（自立に向けた生活習慣づくり）

| |
|------------------|
| (ア) 勤怠指導 |
| (イ) 清掃指導・環境整備の徹底 |
| (ウ) 身なり指導 |
| (エ) 挨拶の励行 |

- ② 進路指導の徹底（自律に向けた学習習慣づくり）
 - (ア) 生徒や保護者との面談を充実させ、生徒理解を深めて適切な進路の指導を行う。
 - (イ) 家庭学習を習慣化し、各自の進路目標を達成できる進路指導。
 - (ウ) 講座の受講や模擬試験等の受験を奨励する。
 - (エ) 進路指導部との連携を密にする。
- ③ HR活動の充実（他者を尊重し、「じりつ」した態度での関わり合い）
 - (ア) 生徒の主体性を育むホームルーム活動。
 - (イ) 各行事や各種委員会に主体的に関わり、積極的に行動する生徒の育成。

3 各教科・各学科の努力目標

〈 国語科 〉

(1) 基本方針

- (ア) 言葉を通じて伝え合う力を育成することで、他者を尊重し、共感する態度を養う。
- (イ) 言語文化に対する関心を深めることで、自ら人生を豊かにしようとする態度を養う。
- (ウ) ものの見方考え方を広くし、比較・検討しながら判断することで、論理的な思考力を養う。

(2) 具体的な努力事項

- (ア) 根拠を持って、論理的に自己の意見や考えを発表させ、練りあい、活動に取り組みさせる。
- (イ) 宿題や小テスト等（漢字・古文単語・文法）を行い、学習を習慣化させる。
- (ウ) 読書活動を通して「読む力」を高めるとともに、各種コンクール応募や漢検受験を推奨する。
- (エ) 単元のまとめや意見文、小論文等の取り組みを通して「書く力」を養い、多様なもの見方、考え方を比較検討しつつ、論理的に自己の意見や考えを構築させる。

〈 地歴公民科 〉

- (1) 授業→復習→予習の習慣化を図り、自主学習のスタイルを定着させる。
- (2) 主体的・対話的深い学びにつながる授業研究と実践を図る。
- (3) 受験指導を強化する。

〈 数学科 〉

1. 指導目標・・・基礎力の充実を図り、学習内容の着実な理解を目指す。
2. 指導方法
 - (1) 1年：数学Ⅰ、数学Aの基礎力を充実させて、確かな学力を養成する。
 - (2) 2年：内容を精選し指導することによって、数学Ⅱの概要が理解できるようにする。
 - (3) 3年：選択科目の学習を通して多様な進路に対応できるように適切な教材を選択作成する。
 - (4) 全学年共通
 - ①生徒が自ら考える習慣を身につけられるような学習環境を構築する。
 - ②学習した内容を確実に理解できるように家庭学習を促す方法を研究する。

〈 理科 〉

- (1) 自然科学の学習に対し、主体的に取り組む態度を養う。
- (2) 自然に対する関心や探究心を高め、科学的な自然観を育てる。
- (3) 見通しを立てた観察実験などを通して、自然の事物・現象を身近なものとして捉えさせる。
- (4) 自然科学に対する基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究する力を養う。

〈 体育科 〉

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

〈 外国語科 〉

- (1) 国際理解教育の推進
- (2) ティームティーチングや習熟度授業の効果的推進
- (3) 各種語学検定取得の奨励
- (4) 受験・留学等の英語面接個別指導
- (5) LL教室等教育機器・備品の活用と管理の徹底

〈 芸術科 〉

- (1) 基礎・基本的な知識及び技術を習得させる。
- (2) さまざまな楽曲や作品に触れることで鑑賞する力を高め、豊かな感性を養い、芸術文化を尊重する態度を育てる。
- (3) 視聴覚教材等を活用し、授業内容の向上に努める。

〈 家庭科 〉

- (1) 実践的・体験的な学習を積極的に取り入れ、生活の自立に必要な知識や技術を習得させる。
- (2) 現在の生活や生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るために各自の生活課題を主体的に解決しようとする力を養う。
- (3) 日常生活との関わりを確認させながら、家庭や地域社会に関心を持たせる。
- (4) ICTや視聴覚教材等を活用し、授業内容の向上に努める。

〈 情報科 〉

- (1) 情報機器や情報通信ネットワークなどを活用して、情報を適切に収集、処理、表現する力を定着させる。
- (2) 社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報社会の進展に主体的に対応できる能力と態度を身に付けさせる。
- (3) 社会で活用する力を伸ばすとともに、進路につながる職業観を育てる。

〈 国際人文学科 〉

- (1) 外国語系及び国際系など文系大学等進学のための言語能力育成を目指す。
- (2) 「異文化理解」や第二外国語の学習を通し、多様性に寛容で国際性に富んだ人材の育成を目指す。
- (3) 少人数指導及びティームティーチングを活用して、英語運用能力を向上させ、英語で主体的にコミュニケーションを図る人材を育成する。
- (4) 各種コンテスト出場、イベント参加、英検上位級取得を目指す。
- (5) 海外研修等の異文化交流事業に関する事前・事後指導を充実させる。

〈 体育学科 〉

- (1) 専攻実技種目（強化種目）を設定し、その高度な技能や理論と指導方法の習得を目指す。
- (2) スポーツV（野外）では1年生キャンプ実習・水辺活動（本島内）、2年生スキー実習（北海道）、3年生マリン実習（渡嘉敷島）等で、その技能の習得と自然に親しむ態度の育成、集団生活の在り方を学ぶ。
- (3) トレーニング機器を効果的に利用し、科学的トレーニングによる体力、技術の向上を図る
- (4) 健康や運動理論を探究することによって、さらに高度な運動技能の習得、実践を行い、将来の体育指導者の育成を目指し、体育系大学への進学率向上に努める。